

「伊沢エイに関する研究」

— ダンス観について —

○ 奥野知加
田川典子

目次

はじめに

1. 足跡—ダンス観形成過程—
 - (1) 留学時代
 - (2) 帰国後から昭和20年代まで
 - (3) 昭和30年代
2. 「自然運動」のとらえ方
3. ダンス作品にみる「ダンス・ムーブメント」の実際
4. 伊沢のダンス指導法
 - (1) 「基本運動」について
 - (2) 「表現」「創作」について
 - (3) 指導の実際

おわりに

はじめに

伊沢エイ(1885～1965)は明治43年姉、藤村トヨの経営する東京女子体操音楽学校を卒業後、坪井玄道の助手を務めダンスに携わる。以来半世紀、女子の体育一筋に生きその歴史を身をもって築き上げた一人であった。特に学校体育のダンスの分野にあってはドイツ留学の成果を生かし自然運動を基盤とする260余の体育ダンス・唱歌遊戯を創作し指導している。伊沢に関する先行研究書は、女性体育史研究会編『近代日本女性体育史』—自然運動の紹介と実践・伊沢エイ—(日本体育社1981)及び、伊沢やゑ子著『伊沢エイの生涯』(参歩企画1981)がある。前者は教育者としての伊沢の業績と女子体育史上における位置づけを明らかにしたものである。後者は伊沢の生涯を通しての肖像と輪郭を公私の目を交えながら多面的に述べ、伊沢エイの人間像を促えたものであるといえよう。その他の研究論文としては『伊沢エイに関する研究(1)～(5)』『伊沢エイの作品に関する研究(1)～(2)』がある。(注1 先行研究一覧参照)この内『伊沢エイに関する研究(1)』に関しては、教育者伊沢の足跡をみながらダンス理念確立に至るまでの概観を述べている。(2)はドイツ留学期における伊沢の活動と思想を詳らかにしたもの、(3)以降はダンス作品分析をもとに作品における動きの実際をみたものである。以上がこれまでの伊沢に関する研究著書及び論文であるがこれらの内、『伊沢エイの

生涯』以外は、断片的なテーマによる、各論であり、総合化されたものにはされていない。そこで本研究はこれらを踏まえ、伊沢のダンス観に焦点を定め、伊沢のダンスに関する総括的な研究として、その思想形成過程を歴史的に攷み、伊沢の提唱した自然運動、基本運動及び動きの実際や指導の実際など、ダンス観に関わる要因を把握する。更に、ダンス理念の中核となるものを抽出し、伊沢のダンスの全体像に迫ろうとするものである。

1. 足跡—ダンス観形成過程—

伊沢のダンス観をみるに当り、約40年に渡る活動期間をその主旨と内容の観点から大きく三期に分割して考察してみた。(資料1参照)

(1) 留学時代

伊沢のダンス理念確立の時期

(2) 帰国後から昭和20年代

自然運動を提唱し学校ダンスにおけるその普及と浸透に努めた時期

(3) 昭和30年代

一方の活動領域である体操界での活動がめざましくなる時期

考察に際して先行研究『伊沢エイの生涯』『伊沢エイに関する研究』(1)及び(2)を踏まえながら、また伊沢の『日記』『学校体育』(3月号～8月号)を参考にすすめた。

(1) 留学時代

東京女子体操音楽学校で教鞭を執っていた伊沢は、学校ダンスの在り方やその理想とする方向を求め、ドイツへ留学する。ベルリンでは姉、藤村トヨと共に生活し研修を積んだ。ドイツでの研修内容については先行研究『伊沢エイに関する研究(1)』に基づいて考察を試みた。これによるとベルリンでは、ヴィグマンシューレとボーデの体操実施コースを定期に受講し、受講時間も一番多くなっている。ヴィグマンシューレでは夜学コース(夜6時から9時まで)を選び基本的な運動を学んだとある。また毎週土・日曜にはヴィグマンシューレより講師を招き動きの個人教授を受けている。ボーデの体操実施コースも同じく実技の他に宿舎に講師を招きボーデの表現体操について解説書に

よる指導を受けている。これらの他ドロテア・シュミットのタンツ部、テスマン式体操、カールマイヤー（Hedwing Kallmeyer 1881～）、メンゼンディーク（Bess Mensendieck 1864～1959）などの各学校でも学んでいる。またロンドン・パリにも訪れ当時の体育事情を視察している。

当時のドイツはドイツギムナスティック連盟（Deutschen Gymnastik Bund—1925 結成—）設立直後に当り、ボーデ（Rudolf Bode 1881～1970）ラバン（Rudolf V Raban 1979～1958）、ヴィグマン（Mary Wigman 1886～1973）、カルマイエル、メンゼン、ディークらの新体操（Neue-Gymnastik）各派が結集し、その統一精神のもとにはなばなく活動を開始していた。伊澤はこの只中で女子の身体的、精神的素質を重視し、それに応ずる新しい律や美を追求し、しかも科学的な基礎をもつこの運動に、強く感銘し、従来の形式化・固定化した体操にとって代わるべきものであると確信した。中でもボーデの表現体操に注目した伊澤は限られた研修期間中に出来るだけ多くを学び取ろうとけん命であった事が当時の日記に綴られている。

そのほか、メリーヴィグマンの公演を見る機会を何度か持ち、その崇高なる舞踊に感激した伊澤は、「その動きの立派さは拙い筆では表現できない。世界的な舞踊家の踊りとは観衆にこびる点は一つもなくひたすら芸術に生きる神のような心境であらわれると推察できる。」と後に述懐している。そして、ヴィグマンを芸術としての舞踊のひとつの頂点と定め、自らもあの域までと、理想を揚げていた事が日記より読みとることが出来る。しかしながら学校体育の立場にある伊澤は、芸術の域までの理想を揚げながらも、まずは自然運動法による身体づくりが第一義であり、それを学び帰ることが使命と、ドイツの各学校では基礎的なコースを選択し動きの習得に励んだ。伊澤はこの留学期における研修と体験を基盤に帰国後は学校ダンスにおける活動に一層の自信と使命感を持って進むこととなり、伊澤のダンス理念はほぼこの留学期に形成されたとされている⁸。

(2) 帰国後より昭和20年代

昭和4年3月に帰国した伊澤は、緊張・解緊張運動を主体にした自然運動法を体操音楽学校の授業をはじめ各地での講習会で紹介、指導を行った。けれども、当時の身体硬直著しいスエーデン体操一色の状況にあっては、なかなか容易には受け入れられなかった。しかし、伊澤は女子の本質に呼応した優美な律動運動は、女子の体位向上のみならず、豊かな情操と自我の覚醒という女子体育の原点ともいうべき課題を明確に打ちだしている事を力説し、また姉、藤村トヨのスエーデン式体操

に対する批判や大谷武一らの協力、更には、昭和4年秋の明治神宮大会における律動感あふれる集団演技発表などによって、自然運動は徐々に評価を集める方向性をもった。また、昭和6年『体育ダンス』¹⁰（日黒書店）、昭和10年『体育ダンスと唱歌遊戯』（日黒書店）で合わせて80曲のダンス作品を発表し、作品を通して自然運動の紹介とその指導方法を解説している。次いで昭和11年『師範大学講座體育第九巻体育舞踊』¹¹（宮辺書店）『現代学校体育全集小学校編第七巻小学校唱歌行進遊戯』¹²（成美社）昭和12年『師範大学講座體育改正體育教授要目解説第五巻唱歌遊戯及行進遊戯』¹³（健文社）を出筆しダンス作品と共に、女子の基礎的な身体づくりにおける自然運動法の導入とその意義を明らかにしている。ようやくこの頃（昭和20年）より自然運動も理解されはじめ、文部省の伝達講習や解説書などにも、伊澤の自説を入れて指導に当たるようになった。

戦後発布された指導要綱に先がけ、伊澤は学校体育指導要綱調査委員を文部省より委嘱され、『学校体育指導要綱解説ダンス編』¹⁴（日本体育指導者連盟編）をまとめた。ここで伊澤は、自然運動の特徴と効果について述べ、「自然運動は身体の動きの自由性と感情の表現を主とする運動には軽視することの出来ない運動法である¹⁵。」とし、指導者は「自然運動と基本ステップを勘案して、各々に適応した教材を創作すると共に、一方児童にもこれら基本指導によって、各自模倣表現より感情表現を自由ならしめ漸次創作的表現に導き、身体の自然的動きの美を發揮させ、ダンスの創作なし得るまでに導くのである¹⁶。」とその方向性を示している。またこの時期従来のダンスが創作ダンスとして発展するにあたり、それらが表現・創作のみに走ることを憂慮した伊澤はこれまで実践してきた自然運動をダンスの基本運動として体系化し、その指導法を明らかにした『学校ダンス』¹⁷（金子書房 1950）を出版した。ここでは、「ダンスを教えるのに基本を無視したり、模倣ばかりで終わったのでは、何年苦勞しても上達は覚束なく、ほんとうに踊らせることも、また、創作させることも無理である¹⁸。」と強調している。更に、この基本運動をすすめた段階としての作品集『新学校ダンス』¹⁹（金子書房 1954）をまとめ、既成作品を通して身体づくりと感情表現の習得を旨とした。

伊澤が帰国後より学校ダンスを基点に活動を続けたこの期間を全体的にみても、ドイツより学び帰った自然運動を提唱し、出版に実技指導にまた150曲にのぼるダンス作品を創作するなど非常に精力的な活動であったといえる。昭和20年代に入ってからようやくそれらが認められ文部省の委嘱も受けるようになったが、20年代後半には指導要領改訂に伴い次第に学校ダンスが創作ダン

ス中心の指導法へと推移し、創作ダンス推進による身体運動の軽減化を危惧する伊澤とは相反する状況が生まれた。しかし全体を通して帰国後からこの昭和20年代までは留学時に確信したダンス理念を実践化した充実期であったといえよう。

(3) 昭和30年代

この時代の伊澤は一方の活動領域でもある体操の分野での活動が目ざましくなる。社会的にも東京オリンピック（昭和39年）に先がけマスケムや手具運動が盛んに行われ、伊澤の作品の中にもそれらは増えている。（資料2参照）また、東京オリンピックにおけるマスケム²⁰は伊澤が直接構成演出を担当し、新体操競技の前身である団体徒手体操の実行委員長、審判長も務め、昭和38年には日本体操協会副会長に就任するなど体操界における役職がふえている。

ダンスの分野では、昭和39年に『図説体育ダンス²¹』（新思潮社）を出版している。これは昭和6年、帰国後最初に発表した作品集『体育ダンス』と昭和10年の『体育ダンスと唱歌遊戯』の改訂版である。伊澤はその序文において、創作を重視するダンスによって創作ダンスの隆盛を見る反面その体育的価値が軽減されつつあると当時の学校ダンスの在り方を批判し、敢えて昭和初期の体育ダンスを復活させた旨を語っている。戦後より学校ダンスが表現・創作重視へと方向転換する中にあるも終始その姿勢を変えずこの時代も一貫して自然運動法に基づく舞踊する身体づくりを主張しつづけていたと言えよう。

先行研究を踏まえながら見直してきた伊澤のダンス観形成過程より次のような考察を導き出すことが出来た。帰国後より学校体育において、身体づくり重視のダンス一筋にすすんできた伊澤であるが、伊澤個人としては、ドイツ留学当時に感銘を受けたメリーヴィグマンの舞踊を理想とし「いずれはあの域まで²⁵」と考えていたことも明らかである。つまり、伊澤の内には学校ダンスと芸術としてのダンスの区別が明確に在り、それぞれへの志向がありながらも、伊澤は自身の使命である学校ダンスにおける目的追求を最優先させたといえることができる。

2. 「自然運動」のとらえ方

伊澤の「自然運動」のとらえ方については『学校体育指導要綱ダンス編²⁶』に主にまとめられている。それによるとその「自然運動」とはドイツ留学より学び帰ったもので、ドイツギムナスティック連盟の提唱する理念と地盤を共にするものであるという。ドイツギムナスティック連盟の統一精神とは以下のようにまとめられている。

- ① 人間の自然性を尊重する。自然に帰れ、運動を選ぶにも自然生活に則したものを選ぶ。
- ② 児童生徒の心理に則して行う。
- ③ 従来よりも運動を自由に行わせる。
- ④ 運動は分解的なものを避け総合的なものを選ぶ。
- ⑤ 人間を部分的に見ず、人格的統體として眺め、之を自己表現的・自己創造的に指導する。
- ⑥ 従って律動を重んじ、音楽が活用される。
- ⑦ 緊張と弛緩の交互性を重視する。

—二宮文右衛門、今村嘉雄、大石峯雄共著

『體育の本質と表現体操²⁷』

（目黒書店 1933）より—

この人間の自然性に則して体育するという新しい自然主義思想に共鳴し啓発された伊澤は、ボーデの表現体操（「音楽を体操に随判させ全身表現である運動の流動のプロセスを重視し、表現体操を緊張と弛緩のリズムにおいて促えようとした。」）を基礎に実践を重ねている。しかし実際には、欧米の婦人と我国の女子は、体格、体質、習慣に於いても非常な相違のあることは言うまでもないとして、現状に照して慎重なる研究のもとに改良したと伊澤は述べている²⁹。伊澤のいう自然運動とは、「科学的な見地より身体の動きを研究した基本運動³⁰」であり、「身体各部の部分的運動から次第に調和的動きに導き自由自在に活動なし得る基礎をつくるのである。これが指導の徹底は身体をつくる上でも又ダンスの成果をあげるためにも重要なことである³¹。」とその重要性を述べている。そして、1.緊張と解緊、2.重心移動の自然性、3.弾性、4.身体各部の伸縮、5.躯幹の自由性、6.四肢と躯幹の釣合、7.運動のアクセント、8.創造性の培養、9.ステップの自由性、10.創作の根幹、の観点³²よりその特徴と効果を述べることで、自然運動の意義を強調している。中でも「緊張と解緊」は、自然運動の本質ともいうべき運動で、あらゆる動きの源泉となるものであり、これによって動きの経済性に基づく合理的な運動が生まれるとしている。この自然運動の指導実践に当っては、1.緊張・解緊、2.振動、3.弾性、4.蛇動、5.重心移動（ステップ跳躍）など5つの運動要素を中心に対象学年に応じて、先の自然運動の特徴と効果を踏まえながら解説がなされている。また各練習とも部分的な運動から全身の調和的なものへと導かれ、最後に、5参考作品³⁴による完成が目ざされる形式となっている。伊澤の自然運動のとらえ方は、前述のように、ドイツギムナスティック連盟の精神を踏まえ、実践的にはボーデの表現体操を基盤に行われた。しかし伊澤はボーデの表現体操を理想としながらも、飽くまでもそれを高次のものとしてとらえ、即時の実践化は早急であるとし、当時の実情に鑑みまずは「緊張と解緊」の律に基づく自然運

動法の体得と、それによる身体づくりを目ざして紹介、奨励したものであったと言えよう。

3. ダンス作品にみる「ダンス・ムーブメント」 の実際

伊澤のダンス作品はその生涯を通じて 260 余を

資料3 『体育ダンス』(昭和6年)より



数えるが、今回の分析対象作品は次の2作品集(57作品)とした。

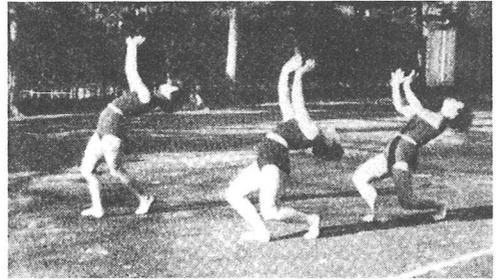
- ・『体育ダンス』(目黒書店 1931.1.) 38 作品
(資料3参照)
- ・『新学校ダンス』(金子書房 1954.4)
(資料4参照)

対象作品の選定に当り『体育ダンス』については、伊澤がドイツよりの帰国直後に創作した自然運動紹介の意味をもつ作品集であることから、自然運動の本質と特長が密に内蔵され、表わされているのではないかという仮説をもった。

『新学校ダンス』は、伊澤の作品の中でもかなり進んだ段階のものが集中しており、自然運動の完成を目ざしているものである。ここでの「動き」の実際を知ることによって、伊澤の理想とする「ダンス・ムーブメント」を探りたいと考えた。(検

資料4 『新学校ダンス』(昭和29年)より

◀ 愛らしき
ピエロ



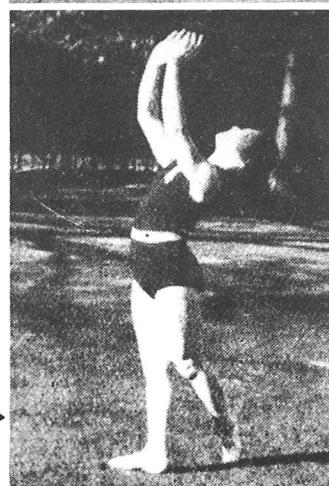
楽しい
遠足 ▶

◀ 遊びませう



輪の流れ ▶

◀ アルプス
の鐘



白鳥 ▶

◀ 蝶のゆくえ

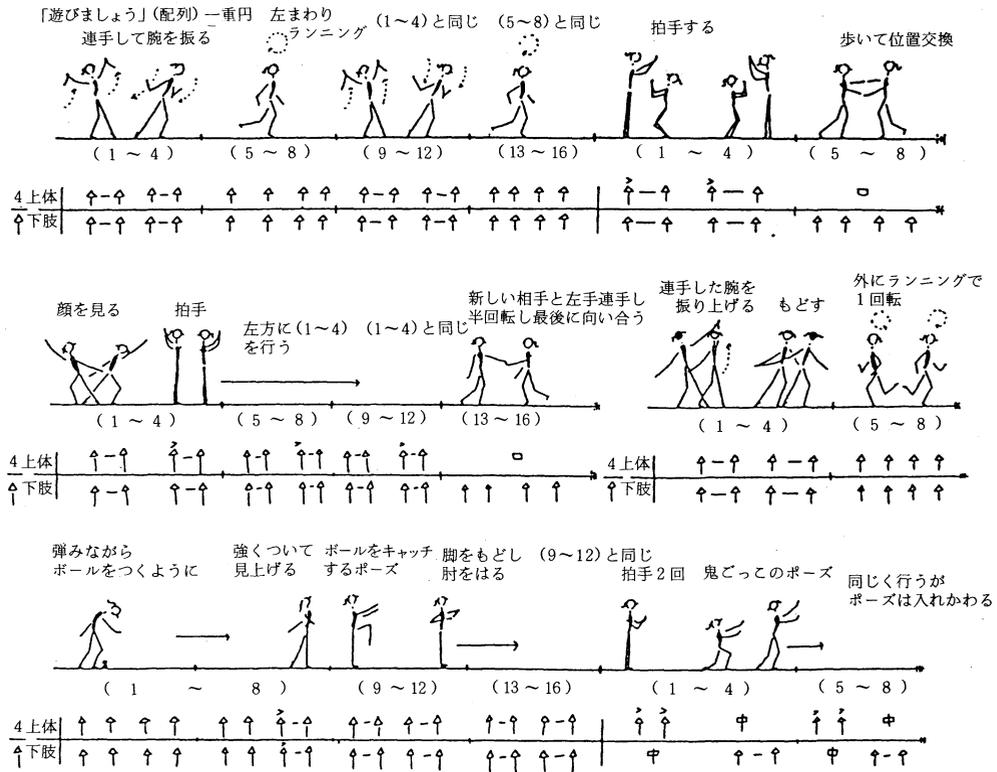
証に当り先行研究(5)と(8)を踏まえながらすすめた。)

検証方法及び結果考察

(1) 両作品集における作品解説を読解して動きを

略図化し、それに舞踊符と呼間数を同時進行させて作品全体の動きの流れを略図表記した。(資料5参照) 難解な動きの解説については、作品の実技経験者の補説を参考とした。略図及び舞踊符、

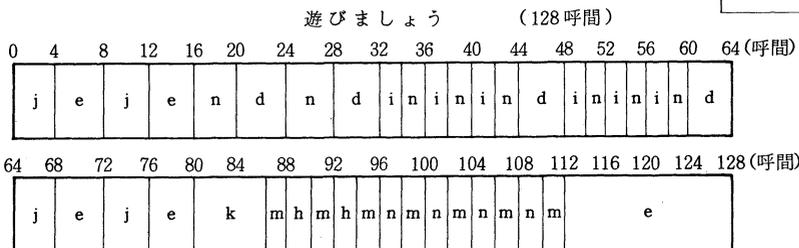
資料5 一略図化の例一



資料6 一運動分類表一

I 緊張・解緊	(a) 緊張
	(b) 解緊
	(c) 山型・水平・舟底型移動
	(d) 歩(ウォーキング)
	(e) 走(ランニング)
II 重心移動	(f) 跳躍(ジャンプ)
	(g) 各種ステップ
	(h) 平均(バランス)
	(i) 倒
III 振動	(j) 振動(振る)
IV 弾性	(k) 弾性(弾む)
V 蛇動	(l) 蛇動(動揺)
VI その他	(m) ポーズ
	(n) 手拍子

資料7 一带状図の例一



資料8

表1 『体育ダンス』における主要運動内容
(体育ダンス・昭和6年)

作品 運動																					%																		
	遊 び ま せ う	胡 蝶	二 羽 蝶	友 千 鳥	モ ル ゲ ン ロ ー ト	親 馬 子 馬	ダ ン ス オ ブ ピ ー ス	波 上 の 月	お お 月 見	ウ ン テ ル デ ン リ ン デ ン	巴 里 人 の 生 活	空 行 雁	蝶 の ゆ く え	エ リ ン ネ ル ン グ	花 の 精 進	星 形 行	連	カ ン ト リ ー ダ ン ス	紅 ら	落 花	蝶 の 乙 女	み ど り の 乙 女	ワ ル ツ ラ イ ゲ ン	私 ち	ロ ー ズ ダ ン ス	牧 人 の 踊	ク ロ ー ソ ー タ ン ツ	躍 れ 姉 妹	喜 び	ミ ニ ユ エ ッ ト	さ つ き	フ レ ン チ マ ー チ	電 車 と 汽 車	雉 子 が り	あ し た	稲 穂 の 雀	ギ ッ チ ョ ン チ ョ ン	浜 千 鳥	
緊張	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	7	5	0	0	0	0	0	
解緊張	0	0	1	0	3	0	13	0	13	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	4	0	0
振動	13	0	10	0	50	5	37	16	13	60	0	0	0	25	18	0	27	0	7	7	0	35	5	0	3	32	12	25	33	15	0	53	5	3	0	24	32	17	
弾性	5	0	0	0	1	0	0	0	0	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	11	10	5	0	0	0	5	0	0	8	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
蛇動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	5	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	15	0	0	22	22	
歩・ウイング	13	0	37	76	0	54	0	42	24	6	0	8	8	0	0	14	0	0	0	67	27	0	0	38	3	5	12	0	40	15	29	6	26	17	5	4	21	22	
走・ラング	25	0	7	24	6	0	6	0	0	6	6	0	0	0	8	0	8	0	0	0	7	0	0	62	12	5	0	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	
跳躍	0	48	12	0	5	25	0	6	24	0	31	11	23	6	5	0	41	27	42	15	1	0	7	0	15	0	38	0	11	0	10	0	22	0	20	4	31	6	
各種ステップ	0	5	8	0	0	14	28	20	13	4	44	75	41	25	24	57	20	73	39	0	12	24	86	0	47	0	38	75	8	55	42	0	18	25	0	25	2	0	
片脚支持	3	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	17	0	0	6	10
倒	9	11	4	0	3	0	0	0	0	6	8	0	0	25	0	0	4	0	9	0	5	4	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0
重心移動	0	36	5	0	5	0	3	8	0	0	0	6	12	6	0	0	0	0	0	1	32	0	0	0	0	16	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
ポーズ	11	0	12	0	19	0	13	8	13	0	0	0	16	0	25	0	0	0	3	0	20	0	0	0	20	0	0	0	0	15	14	4	5	27	50	28	0	6	
手拍子	21	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	5	4	2	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	7	4	17	17	

資料9

表2『新学校ダンス』における主要運動内容
(新学校ダンス・昭和29年)

運動	作品																			%
		べこの子うしの子	やくそくゆびきり	動物遊	こいさなみこい	森のうさぎ	チューリップマーチ	庭の千草	花のワルツ	白鳥	楽しい遠足	輪の流れ	タンホイザーマーチ	ラインの流精	森の青空	小鳥がね	つりがね草	泉のほとり	美しき青きドナウ	
緊張		0	0	0	0	4	4	0	4	4	0	0	6	2	5	1	10	5	3	11
解緊		0	0	0	0	2	0	4	0	0	1	2	3	1	15	3	2	1	3	8
振動		0	0	0	3	1	2	1	0	0	9	3	16	20	0	20	8	10	12	13
弾性		0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	3	9	3	11
蛇動		0	0	0	12	0	6	27	8	19	11	15	27	13	14	17	10	25	26	11
歩・ウイング	キン	13	4	0	8	4	14	0	0	0	0	0	6	13	6	0	0	0	0	0
走	ニ	2	7	0	15	3	7	4	8	4	7	3	12	14	10	13	5	9	0	11
跳躍		10	7	86	6	60	0	0	14	7	12	23	4	0	6	9	8	10	3	9
各種	ステ	14	33	5	12	5	21	17	22	28	26	31	20	14	7	6	28	4	27	7
片脚支持	バ	0	0	0	0	5	8	3	4	4	4	0	6	0	7	4	8	10	7	2
倒		8	14	13	3	1	0	20	4	14	8	15	2	4	3	8	13	2	8	7
重心移動		0	0	0	12	0	0	6	12	9	11	0	4	6	8	6	0	2	2	2
ポーズ		21	14	0	12	3	35	15	12	11	4	2	0	20	2	4	3	13	6	4
手拍子		21	7	5	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		11	14	36	15	4	3	3	12	0	7	6	0	0	0	3	2	0	0	4

呼間数の取扱いは、田川らによる『図説ダンスの基本運動』(新思潮社1983)の凡例に則る。

(2) (1)において明らかになった作品の「動き」のその主たる運動要素は何であるかを検討し、運動要素別に分類した。運動要素の取扱いは田川ら『図説ダンスの基本運動』に準じ内容を細分化し記号を付した。(資料6参照)これは、自然運動の5つの運動要素を基に内容を更に14の運動に分化したものである。

(3) 各作品における運動要素の展開をみるため、運動と呼間数を帯状図にした。(資料7参照)

(4) 各作品における運動要素の出出頻度をみるため、各運動要素毎に実動呼間数を合計し全体呼間数との割合をみてみた。(資料8.9参照)

以上の結果『体育ダンス』に関しては資料8表1でも明らかなように、「振動運動」の項目が著しく高く、「緊張運動」が非常に低いという傾向をみた。この「振動運動」とは力をぬいて振ることであり、「解緊」の要素とリズムカルにくり返すための「弾性」の要素が関与している運動である。またこの「振動運動」習得に伴う身体的効果としては、身体各部の柔軟性の増強とそれによる身体の可動域の拡張、そしてエネルギーの経済性に基づく運動法の獲得などが考えられる。一方「緊張運動」の項目が少ない点に関しては、伊澤が当時の硬直的なスウェーデン体操一色の状況を鑑み、敢えて行わせなかったのではないかと推察する。これから考えられることは、この『体育ダンス』において伊澤は自然運動の特性を紹介すると共に、特に「解緊運動」と「振動運動」を強調することによって、身心のほぐしと柔軟性の増強をねらいとしていたものと思われる。

『新学校ダンス』については、資料9表2で明らかなように、「緊張」「解緊」「振動」「蛇動」「弾性」ともほぼ同じ頻度を示している。次いで「バランス」「倒」「重心移動」「ポーズ」などについても片寄りなくみられ、作品の中に多くの運動要素が組み込まれていることがわかる。この運動内容の充実度は、自然運動の完成を旨とする作品集であることの裏づけとも成り得よう。

このほか、作品の略図化と帯状図の段階で一つの特性をみた。作品中に「2つ以上の運動要素をもつ動きのフレーズ」がくり返しみられる。しかもこの「フレーズのくり返し」は、前後に、左右に、と必ずシンメトリカルにくり返されている、というもので、これによって伊澤は、片寄りのない運動体験に基づく身体の円満な発育発達を旨とし、それを作品化していたと言えよう。

以上の作品における「ダンス・ムーブメント」の実際は、自然運動の本質と特徴を踏えながらも当時の状況や目的に応じて内容が考慮されていること、またダンス作品においても、体育的配慮の

もとに構成され、常に身体的効果に着目していたことがうかがえた。

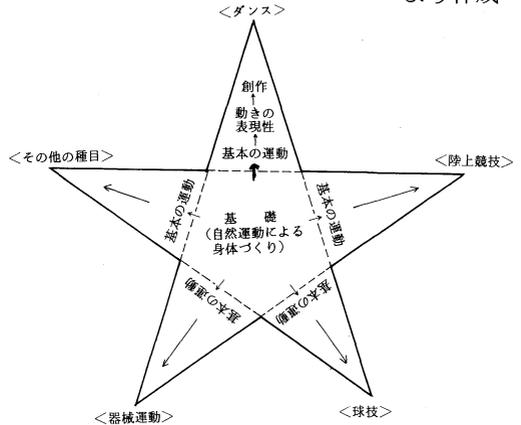
4. 伊澤のダンス指導法

(1) 「基本運動」について

ダンスの基本運動については、『学校ダンス』(金子書房 1951)に主にまとめられている。また伊澤の基本運動に関する位置づけや意義については『師範大学講座第九卷体育舞踊』(建文館1936)にみることができる。ここで伊澤はダンスに限らずあらゆる運動の基礎は体操にあることを明らかにし「ダンスに於ける体操は基礎運動として重要な要素であることは当然過ぎる事でありませぬ。」と述べている。ここでいう体操とはドイツギムナスティック連盟が提唱している新しい体操をいい、自然運動法に基づく身体運動を示すものである。この体操が全ての基礎をなしこれに立脚してそれぞれ専門の基本運動が行われるべきであるとしている。(資料10参照)そしてダンスにあっては「体操に於いて望む事の出来ない微細なる動き、感情有る動き、リズム的な動き」が基本運動の段階で十分に指導されるべきであると述べている。伊澤の基本運動の具体的な内容と指導法は著書『学校ダンス』に詳しい。(資料11参照)これによる

資料10 伊澤の自然運動の位置づけ

『師範大学講座第九卷—体育舞踊—』より作成



と小学校低学年対象としては「〇遊び」(指遊びなど)という取扱いをしている。指導の流れは、部分の動きから全身的なものへの導き、また個人の動きからグループの動きへの発展がみられる。その他、日本の女子の器用性や巧緻性に注目し手先指先など末端の動きを多く、強制的に行わせているのも注目すべき点である。小学校中学年対象では、「動きの目標をはっきりさせ動く意欲と動

資料11 段階別にみる基本運動内容一覧

段階別にみる基本運動内容一覧

『学校ダンス』より作成

対象	動き	上肢の動き	下肢の動き	体幹の動き	表現	その他
小 学 年	低 学 年	指遊び お山遊び お花遊び	石けり遊び 伸よし遊び おうま遊び 兔遊び 亀さん遊び 汽車遊び 蝶々遊び	小人遊び 大遊ぶ せんたく遊び シーソー遊び まりつき遊び	子守遊び	
	中 学 年	手首の緊張と解緊 (雨がふる)(雪がふる) (いなびかり) 腕をあげる練習 腕を廻す運動 (美しい川の流れ)(風車遊び) 腕を振る運動 (ぶらんこ遊び) 腕側開運動(水泳あそび)	いろいろな歩き (背比べ歩き、いもむし歩き、 スケート遊び、伸よし) スキップ フーステップ キャロップ	前屈運動 (蝶を捕えましよう、つみ草遊 び) 体を伸ばす運動 (柿をもぐ、はねつき)		
校 高 学 年	高 学 年	腕の緊張と解緊 腕の廻旋 腕の動揺	足首の運動 足の緊張と解緊 脚を振る運動 脚の伸縮 跳躍	首の運動 肩の運動 胸の運動 体側屈捻転	犬、馬、象、兎、亀、鳥、蝶、 とんぼ、かたつむり、雨、雪、 雷、山、川、月 なわとび、せんたく、そうじ、 子守、はたるがり、草つまみ、メ ダカ捕り、よろこび、かなしみ おこる、あまえる ほか	リズム遊び
	中 学 校	手首の緊張と解緊運動 腕の緊張と解緊運動 腕の動揺	足首の運動 脚解緊運動 拳鉤運動 脚弾性運動 重心移動 ウォーキングステップ 跳躍	首の解緊 胸の解緊 側解緊 後解緊 体解緊歩き 体解緊跳び		基本練習参考教材 (下肢の部、腕の部) (体の部、跳躍)
高 等 学 校	緊張と解緊 腕動揺	緊張と解緊 脚弾性 振脚 脚転 趾踵打ち 基本ステップ	緊張と解緊 前後屈 体側屈 体捻転 蛇動		基本教材結合運動 (下肢の部、腕の部) 蛇動、跳躍 集団運動 (群舞基本)	

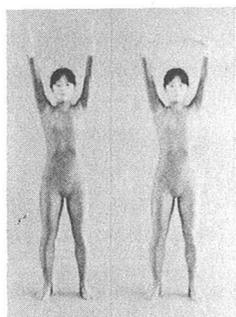
きの美を知らせるよう導きたいのである。」という主旨のもとに、手首・腕の部分的な緊張・解緊張運動にはじまり、体幹の柔らかな前屈運動など蛇動運動の導入ともいえる全身運動を行わせている。運動要素は緊張・解緊張運動、振動運動を主体とし、「もっとも身体⁴⁵の柔軟な時期を無意に過してはならないのである。」というねらいを定めている。小学校高学年では、下肢の運動が増え、脚の緊張・解緊張運動、振動、伸縮、ステップ、跳躍などを行わせている。またここでの全身運動は表現、リズム遊びとして経験させている。表現について伊澤は「表現指導は厳密に言えば指導すべきものではなく、感情教育によって児童の自然表現を誘導すべきであることはいうまでもない。」とその指針を示している。しかし表現意欲の乏しい子供により良い効果⁴⁶をもたらす為に表現材料の紹介とその動きの解説が加えられている。リズム遊びについては、リズムに対する理解力を養うための指導法として、音楽のリズムを身体各部(手拍子、腕の動きなど)で促えることから、身体の総合的な運動でリズムを表現させる段階までを解説している。中学生を対象としては、緊張・解緊張運動、振動、蛇動(動揺)、弾性などの基本運動要素が

身体の部分から全身的な運動へと段階的に解説指導されている。また、その場での動きから移動を伴う動きへの発展もみられる。高等学校においては、「中学校の基本運動の延長であって、それを微妙な動き、高尚な動きに伸ばし、腕・体・脚の結合はもちろん主要運動⁴⁸の結合を練習し表現の自由を期したいと思う。」と基本的には中学生と同じとしながらも「基本教材結合運動⁴⁹」として、多様な動きのフレーズを、数多く練習させることにより、かなり進んだ段階を旨ざしている。また、集団運動(「群舞基本⁵⁰」)の項目を設け、相互協力のもと他との調和を考慮しながら踊るという集団運動の特性を理解させ実践指導がなされるようにと、その目的と指導法が示されている。これらその他にこれまでの断片的な基本運動をダンス作品として昇華したものを各段階に応じた参考作品として提示している。以上が段階別にみたダンスの基本運動の内容とその指導法である。

伊澤の基本運動のもつ大きな特質は、自然運動を中核としていることである。従って主要運動要素(資料12参照)も自然運動と同じ緊張・解緊張、重心移動、振動、弾性、蛇動、各種ステップから成り立ち、部分的な動きから全身運動への導きも

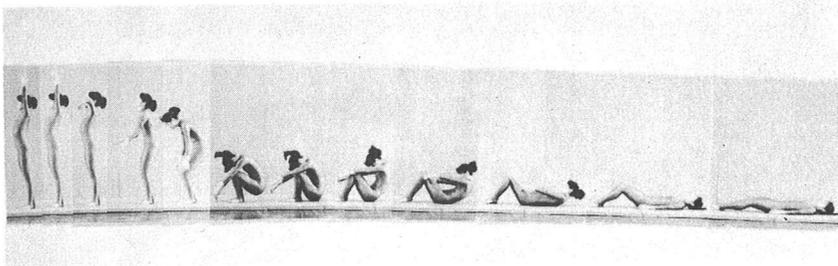
資料12 伊澤の基本運動における主要運動要素例

1 緊張・解緊張



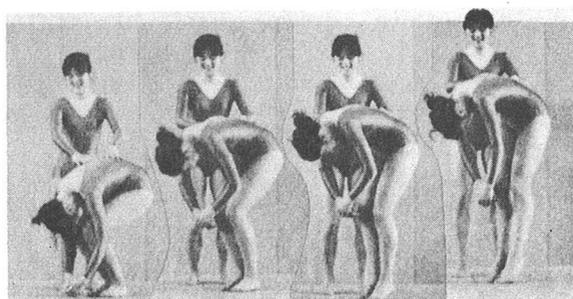
(緊張と解緊張) - 手首 -

『図説ダンスの基本運動』より

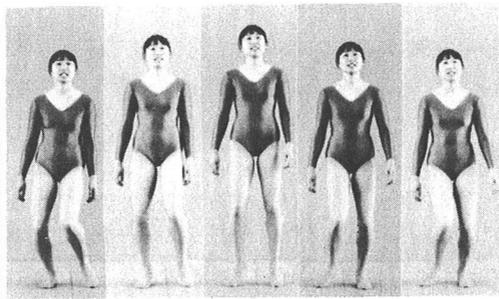


(解緊張運動) - 漸次的な全身解緊張 -

資料12-2 弾性運動

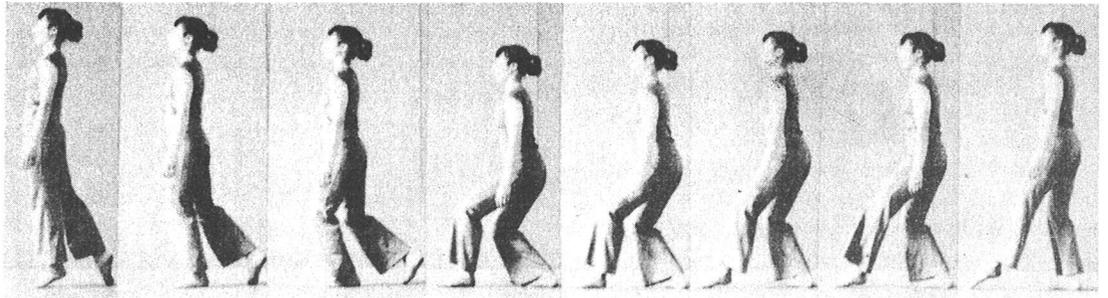


(弾性運動) - 全身の弾み -



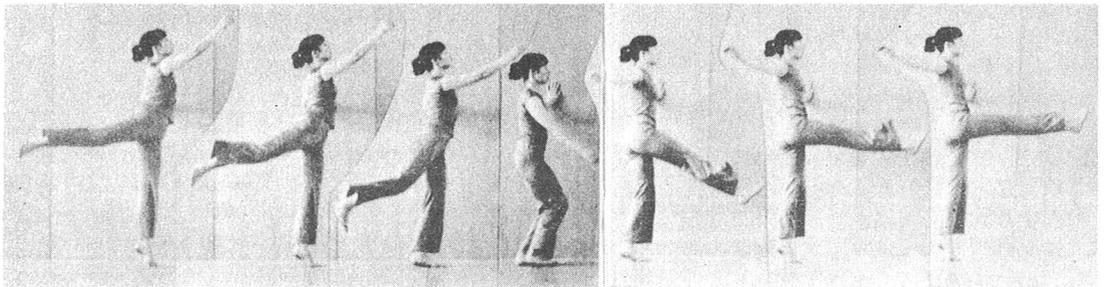
(弾性運動) - 脚の弾み -

資料12-3 -重心運動-



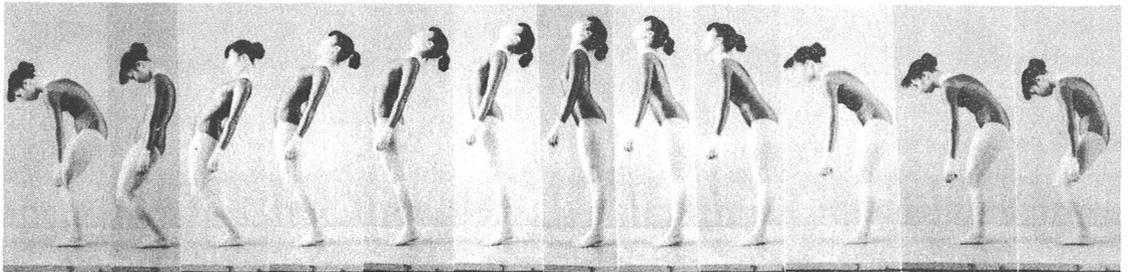
(重心移動) -舟底型移動-

資料12-4 -振動運動-



(振動運動) -脚と腕-

資料12-5 -蛇動運動-



(蛇動運動) -体の前後蛇動-

自然運動のとらえ方と同様に基本運動の練習過程でも必ずみられる。つまり伊澤の基本運動は自然運動を各成長段階に見合った内容に分化、編成したものであり、最終的には、自然運動法に基づく動きの体得を柱に、微細なる動き、感情有る動き、リズム的な動きの習得、並びにそれらに伴う運動効果を重視したものであったと言えよう。

(2) 「表現」「創作」について

「表現」「創作」について独自にまとめられた伊澤の著作はなく、実際の創作指導も晩年（昭和37年頃）、断片的に行われていたという程度である。これらに関する伊澤の主張は、基本運動の頃でも述べたように、厳密には指導すべきものではなく、感情教育によって養われるべきものである⁵²としている。

伊澤のいう表現とは、動きの表現性を示すもので、その運動特有の表現性を、その動きを体得することによって感知することにある。伊澤はこれを実際には既成作品を習得する過程で指導しており、作品を踊り上げることによってその作品のもつイメージとの一体化を図った。この伊澤のいう表現性追求の観点とボーデの表現体操のそれとは微妙な差異がみられる。ボーデは初歩の段階から動きの表現性を目ざしているのに対し、伊澤はまず動きの習得に重点を置き、動きの熟練に伴う表現性の追求という方法を打ち出した。これは伊澤が普及当時の状況や、感情表出の不得手な日本人特有の慣習などを考慮した結果の差異ではないかと思われる。

創作に関しては『学校体育指導要綱解説ダンス編⁵³』でも少しふれている。これによれば「各自模

倣表現より感情表現を自由ならしめ漸次創作的表現に導き自身の自然的動きの美を發揮させダンスの創作なし得るまでに導くのである」と奨励をしているものの、その為には自由自在に活動なし得る基礎の確立が先決であるとしている。つまりダンス創作に至るまでを理想としながらも、体育におけるダンスとしてはまず舞踊できる身体づくりを重視し、その上で創作は行われるべきであった。実際の伊澤自身による創作指導は昭和37年頃より、大学4年生を対象に始められ、群舞構成や動きづくりの指導が行われ、創作指導の体制を整えつつあったという証言を得るに留まる。従って伊澤の創作に関する指導法や実践記録は残され

この弾性運動と組み合わせて振動運動が体得されます。単なる屈伸運動を長く続けると疲れてしまい、自然に無駄な力を入れなくなりになります。それをきちんと体得させてから、これが自然な弾みで、これが自然な振動運動なんだよというような指導をよくされました。

蛇動運動は其中で特に注意深く練習させられました。日本人婦人の背骨の固さを自分の体験から痛感されていたからだと思いますが、特にエイはいつも蛇動、蛇動と背骨の柔らかさを注目していました。この蛇動で背骨を柔軟にして、ダンス表現の際に微妙で柔らかい流れの動きを引き出すことができます。それを伊澤が思うので、特に蛇動運動を強調して練習したのだと思います。

重心の移動も小さく、大きく、その場で、または、ステップしながら回数を重ねる事で自然に体得したように思います。

ステップを形式化しておりませんが、各種ステップについてはあまり多く教わりませんでした。(1987.11.)

資料13 - 「伊澤の指導の実際」収録内容 -

まず最初にダンスウォーキングといって太鼓を叩かれますと、ダンスのウォーキングを始めますが、このダンスウォーキングについては、こういう系統の動きをやったことのない者にとっては大変困難な技術でした。

まず入学しまして、ダンスの授業でいろいろな解緊を練習します。それで、ウォーキングに移りますと、最初はみんなが楽に動いているように見えても、実際に経験のない者が動きますと、ギクシャクして屈伸運動になってしまいます。そこで、だいたい初心者にはダンスウォーキングがうまくなるためにそうとう泣きます。私も泣いた一人です。どんなに先輩にこうだと言われても、なかなかそれが体得できなかった。泣いた覚えがございます。

しかし、いったん足首・膝の力を抜くことの大要領がつかめると、なんだ、こんなものだったのかと思います。何でもそうだと思いますが、自分のやりつけのないものをやる時というのは、緊張しますし、へたな所で力を入れて肝心な所で力を抜き具合がわからないのだと思います。それで、ダンスウォーキングというのは、私の印象で非常に良かった思い出を持っております。

これらの基本となる動きの訓練から自然に身体の動かし方、操作の仕方が習得できたのではないかと思っております。つまり、あらゆる身のこなしが自然に身についてくる。いつの間にか身についてくるという訓練だったように思われます。実際の運動がどのように指導されたかを述べますと、自然運動、つまり、ドイツ体操を基盤としておりますが、その根本として緊張・解緊が徹底されました。その場で行う緊張・解緊や一挙にそれを行う、また、徐々に行うなどリズムを変化させることなどもあり、繰り返して練習するうちに、力の使い方がわかってきます。身体の部分から全身へと練習し、特に脚部を解緊しながら足首・膝に身体の重みを利用して重心をかけると自然の弾みが生まれる。つまり、弾性運動が練習されます。

ておらず明らかにすることはできなかった。しかし翻って伊澤の指導過程をみた場合、その根底には自然運動法に基づく動きの獲得、つまり舞踊できる身体づくりに伴って動きの情緒性が理解できれば、思想感情の表現も自ら自由にできると考え、またこの方法が創作に通ずるものと確信していたと推察される。

(3) 指導の実際

昭和30年当時東京女子体育短期大学において実践されていた伊澤のダンス授業について、当時の短大1年生よりその内容や進行・形態などについて語ってもらいその談を収録し、これに基づいて考察をすすめた。(資料13参照)

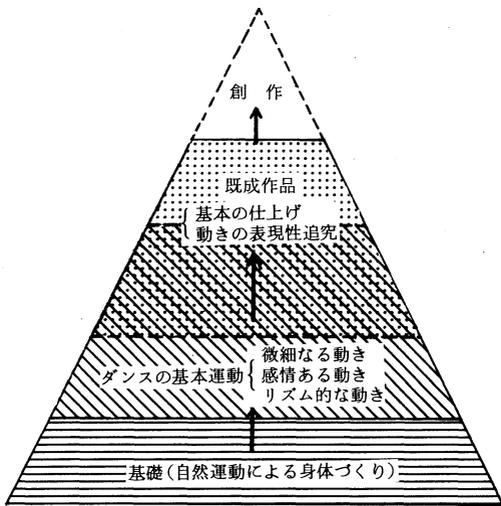
これらよりわかる伊澤の指導上の特色は、一つの運動要素が豊富なヴァリエーションをもち、毎回異なったヴァリエーションを行いながら同じ運動要素を学習していくという方法をとっていることである。そのヴァリエーションも身体の部分的な動きから全体へと発展していく傾向を呈し、同時ににその場での動きから移動を伴うものへと変化している。これらを段階的に習得してゆくことで身体の総合的な協応力が高められていったことがわかる。また指導の進行形態は反復練習によるものであったことが明らかになった。特に基本運動習得の段階においては、厳格で形式的な訓練法によるもので、ある目標水準までの達成が果されるまで反復練習が行われた。この方法は運動技能の習得に伴わせ、身体の鍛練をも兼ねて行われていたものと思われ、体育的運動効果と技能習得とが同時に満たされる方法がとられていたと言えよう。

以上のような基本運動習得と並行して既成作品による動きの練習が行われていた。この作品練習によって、多様な動きの流れの中でも正確な運動ができるという身体の操作を学び、またその動きの持つ表現性をも感知するまでくり返し練習を重ね、動きと感情を一体化させることによって作品を情感豊かに踊り上げることを目的とした。

伊澤のダンス指導の実際が、この既成作品による指導の段階までである事は、伊澤の著作からも明らかである。しかし実際的にはこの段階までに多大な時間が費され、物理的にも次の創作段階への余裕は残されていなかったものと推察される。従って伊澤のダンス指導の確立は基本運動から既成作品による動きの表現指導までであったと言える。(資料14参照)

資料14 一伊澤の指導段階一

伊澤の指導の実際(収録)より作成



おわりに

伊澤のダンス観をみるにあたり、その思想形成過程を知り、伊澤の提唱し指導した「自然運動」「基本運動」「表現」「創作」について把握しながら考察を試みた。また作品にみる「ダンス・ムーブメント」の実際や指導の実際についても考え合わせた。

その結果伊澤は、常に体育的な観点でダンスをとらえ、自然運動を基本にしたダンスの体育的価値と効果を終始追究していたことが明らかになった。伊澤のいうダンスの体育的価値と効果とは、体育の他の種目では望めない繊細で感情豊かなリズムカルな動きを身につけることによって、成長過程にある女子の身心の円滑な発育発達を促すこ

とにあった。そして更に、動ける身体をもってダンス創作へと導かれて行くことを理想としていた。以上が本研究で確認した伊澤のダンス観ということができよう。伊澤が最終的にはダンス創作を理想としていたことは、留学当時に出合ったメリー・ヴィグマンの舞踊をひとつの頂点と定め、それに向う指針を持ちつづけていたことからわかるが、現実的には学校体育におけるダンスの使命を果すべく追究をつづけたことによって、伊澤の内面に在った頂点への志向は知らされないままに終わったと言えよう。今後はこのメリー・ヴィグマンに向う視点より伊澤のダンス観を追究し、より充実したものにしたいと考える。

謝 辞

おわりに本研究論文作成にあたりご教示頂いたお茶の水女子大学片岡康子先生に深く感謝申し上げます。また、伊澤やゑ子先生、今村嘉雄先生、高橋繁美先生には、特に研究資料に関するご指導をいただきました。深く感謝申し上げます。

注(1) 先行研究一覧

- ① 女性体育史研究会編「近代日本女性体育史」－自然運動の紹介と実践－ 日本体育社 1981.5
- ② 伊澤やゑ子「伊澤エイの生涯」 参歩企画 1981.10
- ③ 山田敦子、田川典子「伊澤エイに関する研究1」 東京女子体育大学紀要第16号 1981.3
- ④ 山田敦子、田川典子「伊澤エイに関する研究2」 東京女子体育大学紀要第17号 1982.3
- ⑤ 富川知加、田川典子「伊澤エイに関する研究3」 東京女子体育大学紀要第19号 1984.3
- ⑥ 奥野知加「伊澤エイに関する研究4」 東京女子体育大学紀要第20号 1985.3
- ⑦ 奥野知加「伊澤エイに関する研究5」 東京女子体育大学紀要第21号 1986.3
- ⑧ 奥野知加「伊澤エイの作品に関する研究1」 東京女子体育大学紀要第22号 1987.3
- ⑨ 奥野知加「伊澤エイの作品に関する研究2」 東京女子体育大学紀要第23号 1988.3

注(2) 注(1)－②

注(3) 注(1)－③、④

注(4) 伊澤やゑ子氏所蔵 伊澤エイの「日記」

注(5)

- ① 伊澤エイ「私の歩んできた道」 学校体育 日本体育社 1955.3月号
- ② 同上誌 1955.4月号
- ③ 同上誌 1955.5月号
- ④ 同上誌 1955.6月号
- ⑤ 同上誌 1955.7月号
- ⑥ 同上誌 1955.8月号

注(6) 注(1)－③

注(7) 注(5)－⑥, p.23

注(8) 注(1)－③により明らかにされている。

注(9) 昭和4年10月 明治神宮にて「モルゲンロート」

を発表

注(10) 伊澤の著書一覧

- ① 「体育ダンス」 目黒書店 1931.1
- ② 「体育ダンスと唱歌遊戯」 目黒書店 1935.3
- ③ 「師範大学講座体育第九巻一体育舞踊」 宮辺書店 1936.1
- ④ 「現代学校体育全集小学校編第七巻一小学校唱歌・行進遊戯一」 成美堂書店 1936.12
- ⑤ 「師範大学講座 体育 改正体操教授要目第五巻一唱歌遊戯及行進遊戯一」 建文館 1937.6
- ⑥ 「学校体育指導要綱解説一ダンス篇一」 日本体育指導者連盟編 1947.11
- ⑦ 「学校ダンス」 金子書房 1950.11
- ⑧ 「新学校ダンス」 金子書房 1954.4
- ⑨ 「図説体育ダンス」 新思潮社 1964.5

注(11) 注(10)一③

注(12) 注(10)一④

注(13) 注(10)一⑤

注(14) 注(10)一⑥

注(15) 注(10)一⑥, p.6 R 3-4

注(16) 注(10)一⑥, p.5 R 3-5

注(17) 注(10)一⑦

注(18) 注(10)一⑦, p.1 R 7-8

注(19) 注(10)一⑧

注(20) 東京オリンピック(1964)における前夜祭及閉
開式でのマスゲーム

注(21) 注(10)一⑨

注(22) 注(10)一①

注(23) 注(10)一②

注(24) 注(10)一⑨, p.1

注(25) 注(4)にみられる。

注(26) 注(10)一⑥

注(27) 二宮文右衛門, 今村嘉雄, 大石峯雄共著「体育
の本質と表現体操」 目黒書店 1933.12 p.39

注(28) 上沼八郎「近代日本女子体育史序説」 不味堂
書店 1978.3 p.108 R12-14

注(29) 注(10)一⑥, p.5

注(30) 注(10)一⑥, p.5 R14

注(31) 注(10)一⑥, p.6 R 1-2

注(32) 注(10)一⑥, p.6 R 7-p.9

注(33) 注(10)一⑥, p.31より解説されている, 運動要素
の番号は著者が付けた。

注(34) 注(10)一⑥, p.22, p.54, p.84, p.105, p.129,
番号は著者が付けた。

注(35) 注(10)一①

注(36) 注(10)一⑧

注(37) 注(1)一⑤, 注(1)一⑧

注(38) 田川典子, 高橋繁美「図説ダンスの基本運動」
(新思潮社1983.7)

注(39) 注(10)一⑦

注(40) 注(10)一③

注(41) 注(10)一③, p.9 R 11-12

注(42) 注(10)一③, p.8 R 13-14

注(43) 注(10)一⑦

注(44) 注(10)一⑦, p.13 R 12-13

注(45) 注(10)一⑦, p.13 R 13-14

注(46) 注(10)一⑦, p.29 R 14-15

注(47) 注(10)一⑦, p.30 参考例

注(48) 注(10)一⑦, p.66 R 2-3

注(49) 注(10)一⑦, p.71 R 11

注(50) 注(10)一⑦, p.77 R 12

注(51) 注(10)一⑦, p.87より

注(52) 注(10)一⑦, p.29 R 14

注(53) 注(10)一⑥,

注(54) 注(10)一⑥, p.5 R 4-5

注(55) 注(10)一⑥, p.6 R 1-2

注(56) 当時指導を受けた高橋繁美氏の証言による。

参考文献

- ・ 二宮文右衛門, 今村嘉雄, 大石峯雄共著「体育の本質と表現体操」 目黒書店 1933.12
- ・ 竹之下休蔵, 岸野雄三共著「近代日本体育史」 東洋館出版社 1959.12
- ・ 上沼八郎「近代日本女子体育史序説」 不味堂書店 1968.3
- ・ 伊澤やゑ子「伊澤エイの生涯」 参歩企画 1981.10
- ・ 田川典子, 高橋繁美「図説ダンスの基本運動」 1983.7

資料 1

伊 澤 エ イ 年 譜

- 明治18年(1885) 5月28日 香川県綾歌郡坂出町に藤村九平の5女として生まれる
- 明治33年(1900) 3月 坂出高等小学校卒業
伊澤正次と結婚
- 明治34年(1901) 4月 坂出尋常小学校勤務
11月 小学校准教員免許状受く
- 明治35年(1902) 5月 山崎周信, 高橋忠次郎監督にて「私立東京女子体操学校」設立
11月 私立東京女子体操音楽学校と改称
- 明治36年(1903) 3月 高橋忠次郎, 東京女子体操音楽学校設立者になる
- 明治37年(1904) 4月 姉トヨ, 東京女子体操音楽学校奉職
- 明治39年(1906) 12月 高橋忠次郎, 渡米
- 明治40年(1907) 2月 東京府より体操音楽学校の廃校を命じられたが取消しとなる
- 明治41年(1908) 3月 姉トヨ, 東京女子音楽体操学校校長となる
4月 伊澤夫婦上京
- 明治42年(1909) 4月 東京女子体操音楽学校入学

- 明治43年(1910) 3月 東京女子体操音楽学校卒業, 同校勤務
 体操音楽学校, 日暮里村に移転
- 明治44年(1911) 9月 私立東洋高等女学校勤務
- 大正3年(1914) この年高橋忠次郎, 米国にて客死
- 大正11年(1922) 4月 東京女子体操音楽学校, 東京府北多摩郡武蔵野村字吉祥寺に移転
 4月 坪井玄道, 体操音楽学校名誉校長となる
 11月2日 体操音楽学校名誉校長, 坪井玄道死去
- 昭和3年(1928) 10月 姉トヨ, 文部省より欧米に於ける女子体育運動の調査囑託される
 11月 東京府よりドイツ体育視察の命をうける
 11月4日 東京出発
- 昭和4年(1929) 1月 神経衰弱にかかる
 2月11日 フランスに渡る
 2月19日 ロンドンに渡り研修行う
 2月24日 再びドイツに渡る
 3月 姉トヨと共にドイツ, フランス, イギリス等諸国の体育状況を視察し帰国する
- 昭和5年(1930) 10月 日本体操協会常務理事となる
- 昭和6年(1931) 1月 「体育ダンス」目黒書店より発刊
 5月 姉トヨ, ドイツよりワルター, ブラント両名を招く
- 昭和10年(1935) 3月 「体育ダンスと唱歌遊戯」目黒書店より発刊
- 昭和11年(1936) 1月 師範大学講座・体育第9巻「体育舞踊」宮辺書房より発刊
 12月 現代学校体育全集・小学校編第7巻「小学校唱歌遊戯・行進遊戯」を成美堂書店より発刊
- 昭和12年(1937) 6月 師範大学講座・体育改正体操教授要目解説第5巻「唱歌遊戯」連文館より発刊
- 昭和16年(1941) 2月 姉トヨと共に女子体育振興会より表彰を受ける
- 昭和19年(1944) 3月 東京女子体育専門学校に昇格
 4月 東京女子体育専門学校の教授となる
- 昭和21年(1946) 3月 私立東洋高等女学校退職(34年と7ヶ月間勤務)
 4月 私立藤村中学校・藤村高等女学校副校長となる
 11月 学校体育指導要綱調査委員となる
- 昭和22年(1947) 3月 学制改革により藤村女子中学校設置
 10月 「日本体育指導者連盟編・学校体育指導要綱解説(6)ダンス編」を目黒書店より発刊
- 昭和23年(1948) 1月 学校体育研究会委員を委嘱される
 2月 学校制改革により藤村女子高等学校設置, 新制中学校を併設する
 7月 東京文理科大学体育研究室編「新小学校体育・下巻第6章ダンス」を教育科学社より発刊
- 昭和25年(1950) 4月 東京女子体育短期大学に昇格と同時に理事となる
- 昭和25年(1950) 4月 日本体育指導者連盟理事となる
 11月 「学校ダンス」金子書房より発刊
- 昭和26年(1951) 3月 組織変更に伴い東京女子体育短期大学教授となる
- 昭和29年(1954) 4月 「新学校ダンス」金子書房より発刊
 5月 エイ他5氏共著「中学校女子体育」日本体育社より発刊
- 昭和30年(1955) 1月18日 姉トヨ死去, 生前の功により勲5等瑞宝章を受く
 8月 藤村学園東京女子体育短期大学学長就任
- 昭和31年(1956) 4月 日本女子体育連盟副会長就任
 4月 東京都体操協会副会長就任
- 昭和32年(1957) 4月 関東体操協会副会長就任
- 昭和34年(1959) 5月 東京都知事より教育功労者として表彰される
- 昭和36年(1961) 6月 東京女子体育短期大学吉祥寺校舎より国立校舎に移転始まる
- 昭和37年(1962) 1月20日 付東京女子体育大学設置認可を受ける
 3月 エイ創作によるリズム体操発表される(日本体操協会制定)
 4月 東京女子体育大学初代学長就任, 短期大学学長兼任
- 昭和38年(1963) 1月 日本体操協会副会長就任
 4月 関東体操協会顧問就任

- 4月 東京都体操協会顧問就任
 9月 日本学士会名誉会員に推薦される
 10月 日本学士会よりアカデミア賞受く
 昭和39年(1964) 5月 「図説体育ダンス」新思潮社より発刊
 10月 教育功勞により藍綬褒賞受賞
 11月 日本体操協会により日本体操界への貢獻により平沼賞を受く
 昭和40年(1965) 1月2日 日脳出血の爲死去、生前の功により勲3等瑞宝賞を受く

資料2

伊澤エイの作品一覧

No	年 月	作 品 名
1	大正15年3月	胡 蝶
2	昭和2年2月	二 羽 の 蝶
3	" " 10月	遊 び ま し ょ う
4	" " 6年1月	モンゲルロート
5	" "	フレンチ・マーチ
6	" "	蝶 の た わ む れ
7	" "	私 た ち
8	" "	喜 び
9	" "	友 千 鳥
10	" "	親 鳥 子 鳥
11	" "	ダンス・オブ・ピース
12	" "	波 上 の 月
13	" "	お 月 見
14	" "	ウルテルデンリンデ
15	" "	巴 里 人 の 生 活
16	" "	空 行 雁
17	" "	蝶 の ゆ く え
18	" "	エルンネリング
19	" "	花 の 精
20	" "	星 形 行 進
21	" "	蓮
22	" "	カントリーダンス
23	" "	紅 ば ら
24	" "	落 花
25	" "	み どり の 乙 女
26	" "	ワルツライゲン
27	" "	ローズダンス
28	" "	クローソータンツ
29	" "	躍 れ 姉 妹 よ
30	" "	ミニュエット
31	" "	さ つ き
32	" "	電 車 と 汽 車
33	" "	雉 子 が り
34	" "	ギ ッ チ ョ ン チ ョ ン
35	" "	あ し た
36	" "	稲 穂 の 雀
37	" "	浜 千 鳥
38	" "	牧 人 の 踊 り
*39	" " 8月	ア ル プ ス の 鐘
40	" " 11月	子 供 の 踊 り

No	年 月	作 品 名
41	昭和7年1月	集 路 傍 の ば い
42	" " 3月	影 踏 の ば ら 絵
43	" " 4月	晴 れ の 競 技 象
44	" " 12月	舞 踏 の 印 象
45	" " 8年10月	ガ ロ ッ プ パ ー レ ス ケ
46	" " 12月	元 来 た 方 へ や
47	" " 9年1月	廻 れ や 廻 れ や
48	" " 3月	つ ば く ら め
49	" " 9年4月	庭 の 千 草
*50	" " 5月	野 辺 の 花
51	" " 6月	漁 船
52	" " 7月	紅 葉
53	" " 8月	青 嵐
54	" " 10月	雲 の 峰
55	" " "	ハ ン ガ リ ア 舞 曲
56	" " 12月	マ ズ ル カ
57	" " 10年1月	だ る ま さ かん
58	" " 3月	雨 の 止 む 時
59	" "	騎 兵 車
60	" "	水 踊 る 小 猫
61	" "	人 捕 り 遊 び
62	" "	姉 と 弟
63	" "	夕 風
64	" "	喇 叭 手
65	" "	さ あ , さ あ , や ろ う
66	" "	春 の 華
67	" "	あ け ぼ の
68	" "	私 の ボ ー ル
69	" "	雲 雀 は 空 に
70	" "	国 風 マ ズ ル カ
71	" "	希 望
72	" "	愛 ら し き ピ エ
73	" "	春 の 曉
74	" "	人 形 の 踊 り
75	" "	朝 の 海
76	" "	秋 の 訪 れ
77	" "	追 わ れ る 胡 蝶
78	" "	朝 日 は の ぼ る
79	" "	
80	" "	

No.	年 月	作 品 名
81	昭和10年3月	楽しき思い出
82	" "	風 花
83	" "	藍
84	" "	水藻はゆらぐ
85	" "	一番星みつけ
86	" "	菊の花
87	" "	兔
88	" "	ポ チ
89	" "	ア メル
90	" "	ホ タ
91	" "	ユ キ ダ ル マ
92	" "	ネ ズミのモチヒキ
93	" "	か け っ こ
94	" "	雪
95	" "	サ ク ラ
96	" "	山の上から
97	" "	虫のこえ
98	" "	村の祭
99	" "	日本国
100	" "	白帆
101	" "	水すべり
102	" "	夏の月
103	" "	舟の旅
104	" "	海
105	" "	秋の山
106	" "	荒城の月
107	" 11年1月	飛行機
108	" "	びよんぴよこ
109	" "	おむのお話
110	" "	猿ヶ島
111	" "	円舞かもめ
112	" "	大地に伸びる
113	" " 2月	雪合戦
114	" " 3月	ヒカウキ
115	" " 4月	スキーの歌
116	" " 6月	鳥と花
117	" "	シヤボン玉
118	" " 11月	スコッチキャップ
119	" " 12月	日の丸の旗
120	" "	鳩
121	" "	兵隊さん
122	" "	ヒコウキ
123	" "	案山子
124	" "	蝶々
125	" "	雪
126	" "	春が来たり
127	" "	春が来たり
128	" "	かぞへ歌
129	" "	汽車
130	" "	春の小川

No.	年 月	作 品 名
131	昭和11年12月	水師營の会見
132	" "	おぼろ月夜
133	" "	故郷
134	" "	春風
135	" "	幼き頃の思い出
136	" "	象
137	" "	反さがしく
138	" "	縫うてゆく
139	" "	かたつむり
140	" "	私のまね
141	" "	シ ー ソ ー
142	" "	こ と ろ
143	" "	ご 挨拶 拶
144	" "	ひ き く ら
145	" "	鬼ごっこ
146	" "	かげぼうし
147	" "	ブレックニング
148	" "	ぶらんこ
149	" "	仲よこし
150	" "	マウンテンマーチ
151	" "	スケーティング
152	" "	ブラックナッグ
153	" "	クラエプダンス
154	" "	リチカ
155	" "	ヴァルソヴィエヌ
156	" "	アイリッシュリルト
157	" "	ヴィンヤード
158	" "	ポルカセリーズ
159	" "	ギャザリングピースコーツ
160	" 12年6月	グリーティング
161	" " 9月	タンホイザー
162	" " 12月	菊
163	" 22年11月	小馬
164	" "	凧
165	" "	港
166	" "	競走
167	" "	よろこび
168	" "	野ばら
169	" "	三つ蝶
170	" "	ドナウの漣
171	" "	刈刈
172	" 24年5月	令嬢の乗馬
173	" 25年11月	雀の学校
174	" "	夕やけこやけ
175	" "	お馬のけいこ
176	" "	どんぐりコロコロ
177	" "	ゴムマリボン
178	" "	おせんたく
179	" "	ほたる来い
180	" "	春が来た

No	年 月	作 品 名
181	昭和25年11月	凧 あ げ
182	" "	太 鼓 の ひ び き
183	" "	ち ん か ら 峠
184	" "	見 て ご ざ る
185	" "	青 い 眼 の 人 形
186	" "	ポ ー ル 遊 び
187	" "	漁 業 の 歌
188	" "	ま わ る ま わ る
189	" "	朝 は ど こ か ら
190	" "	風 は そ よ 風
191	" "	美 し き 天 然
192	" "	ア ラ ベ ス ク
193	" "	紡 ぎ 車
194	" "	出 船 の 港
195	" "	早 乙 女
196	" "	し か ら れ て
197	" "	蝶 を 追 う て
198	" "	乙 女 の 祈 り
199	" "	アルプスの夕映
200	" "	金 波 銀 波
201	" 27年9月	森 の 精
202	" 29年3月	べこの子うしの子
203	" "	やくそくゆびきり
204	" "	動 物 あ そ び
205	" "	こいこいさざなみこい
206	" "	森 の 小 う さ ぎ
207	" "	チュールリップマーチ
208	" "	花 の ワ ル ツ
209	" "	白 鳥
210	" "	た の し い 遠 足
211	" "	輪 の 流 れ
212	" "	タンホイザーマーチ
213	" "	ラインの流れ
214	" "	小 鳥 と 青 空
215	" "	泉 の ほ と り
216	" "	つ り が ね 草
217	" "	美 し き 碧 き ド ナ ウ
218	" " 8月	どんぐり小僧大行進
219	" 30年	ニコニコ体操
220	" "	三 匹 の 子 ぶ た
221	" "	村 の か じ や
222	" "	虹 の リ ボ ン
223	" "	平 和 の 光
224	" "	カルメンシルバ
225	" "	ワ ン ズ
226	" "	銀 波
227	" "	ポ ー ル
228	" "	棍 棒
229	" 31年8月	落 花 の リ ズ ム
230	" "	リ ズ ム に の せ て

No	年 月	作 品 名
231	昭和31年8月	人 形 の マ ー チ
232	" "	短 杖 リ ズ ム 運 動
233	" "	棍 棒 体 操
234	" 32年	サキソホンマーチ
235	" "	スポーツの鐘がなる
236	" "	人形のマーチ(人形)
237	" "	い ち ょ う 円 舞 曲
238	" "	秋 を 踊 る
239	" "	金 の 輪 銀 の 輪
240	" "	携帯器具リズム運動
241	" "	垂 鉛 体 操
242	" 33年	兔 と 亀
243	" "	五 色 の マ ー チ
244	" "	聖 火 を か ざ し て
245	" "	旅 愁 変 奏 曲
246	" "	旅 を ゆ く
247	" "	手 具 リ ズ ム 運 動
248	" "	ア ジ ア の 若 人
249	" 34年	わ ら べ 歌
250	" "	おもちゃの兵隊さん
251	" "	時計屋の店先で
252	" "	ダニューブの流れ
253	" "	金 と 銀
254	" "	祝 典 行 進 曲
255	" 35年	アメリカの巡還兵
256	" "	波 濤 を 越 え て
257	" "	ハ イ テ ィ ー ン
258	" 37年	東京オリンピックの歌
259	" "	オリンピック大行進曲
260	" "	ワ ル ツ に の せ て
261	" 38年	東京オリンピックの歌
262	" "	栄 冠
263	" "	く る み 割 人 形
264	" 39年	希 望 (輪)

(注) No. 2~No. 39, No. 50, No. 201~No. 217 が分析対象
作品